

武州 入間川 プロジェクト

武州ガス と 入間川

武州ガスの創始者原次郎氏は、入間川の治水に、大きな功績を残しました。原次郎氏は、明治28年(1895年)埼玉県入間郡三芳野村紺屋(現在の坂戸市)に生まれ、水害の常習地帯である貧しい村の惨状を見て育ち、「治水を図り、貧困をなくすこと」を強く心に誓ったと言われています。昭和15年(1940年)には入間川水系改修期成同盟会会長として、治水に情熱を傾けました。そして昭和17年(1942年)には、この熱意が実を結び、入間川・越辺川・小畔川が国の直轄河川に指定され、入間川水系の三川分流工事の実現など治水に尽力されました。



原次郎氏

武州ガスは、入間川流域を中心とした地域に密着した企業として、地域を支えるとともに、社会貢献活動に積極的に参加しています。入間川流域の次の世代に伝えていくため、先人の遺志を継ぎ、今回のプロジェクトに至りました。

入間川流域



武州・入間川 プロジェクト とは

入間川流域で環境保全活動をされている市民団体等に対し、武州ガス・荒川上流河川事務所・埼玉県生態系保護協会が主体となりその活動を支援する助成事業です。

【趣旨】 入間川流域における地域社会の活性化を目指し、市民団体等が行う活動に対し費用助成を行います。

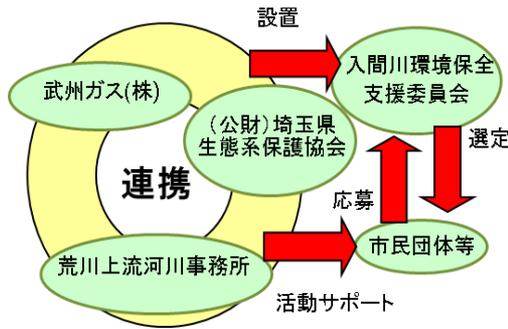
【助成対象】 市民団体、学校等の非営利団体による公益的な活動

【助成範囲】 入間川流域の8市8町1村
川越市、狭山市、入間市、鶴ヶ島市、日高市、川島町、坂戸市、鳩山町、毛呂山町、飯能市、東松山市、嵐山町、小川町、ときわ町、越生町、寄居町、東秩父村での活動

【対象活動】 ① 原則として入間川流域(入間川、越辺川等)の河川内をフィールドとして行う河川環境の保全・再生・創出に貢献する活動等(河川清掃のみを目的とした活動等は対象外)
② 上記活動などに関するセミナー等の実施、河川環境・防災に関する学習活動

武州・入間川プロジェクトでは、平成22年のプロジェクト開始以来、15年間で累計179団体が助成を受けて活動しています。

武州・入間川プロジェクト



＜関係機関の支援内容＞

【武州ガス株式会社】
活動資金の提供(活動助成)等

【荒川上流河川事務所】
活動フィールドの提供、
河川に関する講師の派遣・情報の提供、
調査の共同実施

【公益財団法人埼玉県生態系保護協会】
市民団体等への指導・助言、
専門家の派遣等

助成団体の活動紹介(代表例)

[埼玉県立いずみ高等学校]



三ツ沼ビオトープでの環境保全活動の実施、竹林の伐採、希少植物の保全(埋土種子の発芽を目的とした湿地の掘り起こし)を行いました。

[上尾の自然を守る教職員の会]



三ツ沼ビオトープの調査・自然保全活動を通じて、自然離れをしている若い親子を中心に、楽しく自然に接する体験をしてもらう「親子自然塾三ツ沼」を開催しました。

[城西大学]



希少種であるホトケドジョウ生息地のモニタリングのため、採水や分析、捕獲調査、国内外来種の駆除を行いました。

[特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク]



地域の河川の水質調査を行い、水質調査の結果をマップ化し、荒川流域の学校や環境団体等に広く配布したりHP上で公開することで、河川環境改善の啓発を行いました。

※これまでの助成活動についてはこちらをご参照下さい。
→ https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index049.html

